



1 学習に取り組んでいる主な分野

<input type="checkbox"/> 生物多様性	<input type="checkbox"/> 海洋	<input type="checkbox"/> 防災・減災	<input type="checkbox"/> 気候変動
<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input type="checkbox"/> 国際理解	<input type="checkbox"/> 平和	<input checked="" type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 生産と消費	<input type="checkbox"/> その他 ()	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は、「自分たちの行動が未来につながっていることを認識する子ども」「人々や世界とのつながり、自然環境との関係を尊重する事」「主体的に課題や問題をとらえ、解決しようとする子ども」を育成することを目標に、各教育活動に取り組んでいる。

ESDの推進方針としては、地域の特色からSDG③「すべての人に健康と福祉を」、SDG⑦「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、SDG⑪「住み続けられるまちづくりを」を重点に、体験を重視して地域とのつながりやかかわりを意識した取組を進めている。



3 特徴的な活動事例の紹介

○ ジュニア民生委員・児童委員の活動(6年)

本校の第6学年は、「ジュニア民生委員・児童委員」として、地域の方々や下級生のために自分たちができることを考え、主体的に活動している。校内では、1年生の生活や学習を支援するほか、縦割りグループのリーダーとして下級生全体を牽引している。校外では、民生委員の方々と共に募金活動に取り組み、まちづくりへの参画意識を高めており、これらの活動を通じ、誰もが安心して住み続けられる学校・地域づくりに貢献することを目指し、日々取組を進めている。



○ 障がいのある方とのふれあい活動(3年)

第3学年では、障がいのある方の生活に関心を持ち、自ら課題を見出す学習を展開している。具体的には、アイマスクや車いすを用いた体験活動に加え、当事者から直接生活上の思いを聴講する活動を実施した。さらに、点字や手話、バリアフリー設備といった障がい者を支える工夫や社会の仕組みについて調査を深めている。これらの学習を通じ、児童は障がいのある方への適切な関わり方や、自分たちにできることを多角的に考察している。体験と対話を繰り返すことで、共生社会の担い手として、持続可能な社会の一員にふさわしい資質・能力の育成を図る。



○ ペットボトルキャップ回収(iサイクル)への協力

全学年で、ペットボトルキャップの回収活動に取り組んでいる。回収したペットボトルキャップは、ESD委員会を中心に色ごとに分別され、市内の病院を通してリサイクル業者に届けられ、換金される。その収益金は、特定非営利活動法人である「ISAPH」に寄付金として届けられ、アジアの途上国の医療活動に生かされている。

子ども達の活動が多くの命を救うことにつながっていることをとらえさせるとともに、自分自身と世界とのつながりを実感させるようにしている。



3 今後の活動計画

令和8年度は、本年度の実践成果と課題を基盤とし、児童が活動の意義を深く実感し、より主体的に取り組む姿を目指す。ジュニア民生委員の活動では、募金活動に加え、まちづくりの視点から自分たちにできることを模索させる。また、校内の課題を児童自らが発見し、解決を図る学習過程を構築する。ペットボトルキャップ回収活動では、ESD委員会が中心となり、活動の意義や協力を全校へ自律的に発信する場を設ける。こうした主体性を育む活動を組織的に展開するため、各活動のPDCAサイクルを明確化する。具体的には、課題との出会わせ方や意欲を持続させる展開、活動を通じたゴール像を構造化し、担当者が交代しても一貫した指導ができる体制を整える。これにより、児童の社会参画意識と自己有用感のさらなる向上を図る。